

令和5年度 学力向上指導改善プラン

高平小学校長 新谷 巧一

学校教育目標		「人とつながりよりよい自己をめざす」児童の育成 ～「やさしさ」「ふるさと」高平～		4月		2～3月		
推進主体		管理職と学校教育改革推進委員会		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価		
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)		
						評価		
学 力 の 状 況	国語	○「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」の設問では、兵庫県及び全国の平均正答率より上回り、読みとる力の高まりが伺えた。 ○「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」の設問では、兵庫県及び全国より上回っていた。 ◆「読むこと」では、兵庫県及び全国の平均正答率より、やや下回った。 ◆「言語の特徴や使い方にに関する事項」及び「話すこと・聞くこと」では、兵庫県及び全国の平均正答率より、下回った。 ◆漢字や文章を書く各設問に対して、無回答率が高い。		○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善 (児童が見通しをもって学習に取り組み、児童が自分の考えを持って他者との対話し思考を広げ、児童が問題を解決する授業を目指す)		・情報の扱い方に関する事項では、特に「原因と結果など情報と情報との関係について理解する」の設問では、全国平均を8ポイント上回り良好であり、情報整理の力が高まっていることが伺える。要因として、iPadを使用した授業を行うことで、火山の情報(資料・図・グラフ)から収集した経験を通して情報理の力が身に付いてきたと考えられる。 ・昨年度より漢字の正答率が上がった。要因として言語活動を位置づけた授業を進めることで、語彙力が増えたり言葉の意味の違いに気づいたりできるようになったと考えられる。 ・「書くこと」では、昨年度は全国比-3ポイントだったのが、今年は、正答率が28.6(全国平均26.7%)で、全国平均を1.9ポイント上回り、「書くこと」の力の伸びが昨年より見られた。		A
		○「数と計算」の領域では正答率が全国平均・県平均を20ポイント近く上回っていることから問題解決の方法を思考・判断・表現する力が身につけている。 ○「変化と関係」の領域の「百分率で表された割合を分数で表すことができる」「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」での正答率が高いことから知識・技能が身につけている。 ◆「図計」においては、県、全国平均をやや下回った。		○全国学力・学習状況調査における平均正答率が全国平均を上回る。 ○授業における学びの姿勢や態度を表す項目が向上する。		・教科書の文章を根拠にした発言を促し、内容の理解を進める。 ・自分の考えを積極的に表現するために必要なスキルの習得を進める。 ・問題文の意味を的確にとらえるための具体物や半具体物を用いて授業を行う。 ・問題解決型の学習の取り組み、ペア学習、グループ学習を位置づける。 ・特別活動の充実を図り、目的や意図に応じて話す機会を設定して、意欲的な学びの姿勢を高めていく。 ・同室複数指導、少人数授業の充実を図る。		
	算 数 学	○「数と計算」の領域では正答率が全国平均・県平均を20ポイント近く上回っていることから問題解決の方法を思考・判断・表現する力が身につけている。 ○「変化と関係」の領域の「百分率で表された割合を分数で表すことができる」「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」での正答率が高いことから知識・技能が身につけている。 ◆「図計」においては、県、全国平均をやや下回った。		○全国学力・学習状況調査における平均正答率が全国平均を上回る。 ○授業における学びの姿勢や態度を表す項目が向上する。		・問題文の意味を的確にとらえるための具体物や半具体物を用いて授業を行う。 ・問題解決型の学習の取り組み、ペア学習、グループ学習を位置づける。 ・特別活動の充実を図り、目的や意図に応じて話す機会を設定して、意欲的な学びの姿勢を高めていく。 ・同室複数指導、少人数授業の充実を図る。		B
		○学校で端末を活用する経験から、ICTに対して「学ぶときに便利なアイテム」と感じている児童は増えている。 ◆「個別最適な学び」「協働的な学び」のためのツールとしてのICT活用の実践を増やしていく。		○質問紙で「学校で、学級の友達と意見を交換する場面、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」、「学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使っていますか」で回答する割合が昨年度を上回る。		・課題解決に向け、自己の考えをまとめる(一人学び)時間を授業に位置付ける。 ・グラフ等のデータの特徴を捉える活動にタブレット端末を活用し、情報の特徴を捉える学習の充実を図る。 ・ミライシードを活用し、児童生徒の学習の定着状況等に応じた個別最適化された学習の充実を図る。		
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	○学校アンケートにおいて、保護者の95%以上、児童の85%以上が「学習内容の基礎基本の定着が図られている」と肯定的な回答が見られた。 ◆補充学習が必要な児童への指導時間の確保が必要。(経年)		○テスト返却後の補充学習に丁寧に取り組ませるなど、学習内容の定着に重点をおいた取組を推進する。 ○ミライシードを活用し、基礎基本の定着を図る。		・担任、兵庫型学習システム推進教員、児童支援教員が児童の課題を共有して指導する。 ・ひょうごがんばり学びタイムで、児童の習熟に応じた効果的・自主的な補充学習を行う。 ・漢字・計算等の基礎基本のさらなる定着をめざし、家庭学習とつなげた指導を行う。		A
		○「高平スタンダード」(めあてとふり返し、板書、ノートの取り方、発言の仕方、聞き方等のルール)が定着してきている。 ◆自分の考えを持ち、積極的に表現することができない児童もいる。(経年)		○1時間の学習内容をノートにまとめることで、理解を深める。 ○友だちの考えと自分の考えを比較し、表現する。		・「高平スタンダード」に基づき、自分の意見を積極的に表現できる授業を行う。 ・板書やノートに学習のめあてと振り返りを書く取り組みを通して、学習内容の定着をはかる。		
学 力 向 上 に 係 る 学 習 習 慣 ・ 生 活 習 慣 等	○学校に対する安心感・信頼感が高く、お互いを認め人権教育を核とした教育課程の推進の成果が見られる。 ○学習意欲についてはおおむね良好と判断できるが、睡眠など生活習慣に課題がある。 ◆新聞を読むこと、1日の学習時間に対する質問に対して否定的な回答が多い。 ◆社会に出た時、国語科の学びが有用であることは感じているが、あまり好きではないという回答が見られる。 ◆課題解決に向けて、自分で考えて取り組もうとする児童の割合が低い。		○「ひとり学びへの手引き」等を活用し、家庭における自学の習慣を身に付ける。 ○生活指導委員会や月ごとの生活目標を設定し、生活習慣の確立・向上を進める。		○家庭学習の具体的な手立てを提案し、前年度より数値が向上する。 ○生活リズムを整え、計画的な学習習慣を定着させる。		B	
	◆挨拶の取組に対する児童の意識と保護者・地域の評価が異なり、児童から進んで挨拶することに課題がある。				・学年通信等を通して、家庭学習の啓発を図る。 ・保健指導・保健室通信・学校だより・HP・学級指導等を通して、生活習慣や健康に関する情報を発信し、各家庭の理解と協力を求めていく。			
校 内 研 究 ・ 研 修 の 状 況	○これまで地域と連携して実践してきた活動や実践を整理し、カリキュラムマネジメントマップにまとめる。 ◆「心豊かに、学ぶ楽しさを感じることでできる学校地域をめざして」のテーマで、コミュニティスクールの研究を進めていく。		○コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について、職員研修を実施する。 ○学校地域運営協議会と連携して、学校を核とした地域連携プログラムを構築する。		○教師一人ひとりが研究テーマを理解し、日々の授業実践を積み重ねていく。 ○学校地域運営協議会と課題を共有し、地域と連携したカリキュラムマネジメントマップを構築していく。 ○地域の学習拠点(寺子屋)と連携した取組を実施する。		B	
	◆学習指導要領の着実な実施に向け、人権教育、情報教育、コミュニティ・スクールに係る教育課程の編成等、さらなる新学習指導要領の着実な実施に向けた研修を行う。		○通信やHPを活用した積極的な情報発信を行う。 ○地域と連携した、児童を見守る環境整備を進める。		・研究授業を行い、地域と連携したカリキュラムマップを確立させる。 ・他学年の授業を見学し、授業改善の視点を共有する。 ・児童の実態を調査し、より本校児童の課題にあった研修を実施する。			
家 庭 ・ 校 区 間 連 携	◆学校・学級だより、HP等の積極的な情報発信を行うとともに、PTAや地域人材と連携した取組を進める。		○月一回以上の学校・学年通信を発信し、HPの更新と内容の充実を図る。 ○地域コーディネーターを核とした地域人材の活用を進め、教育活動のねらいの共有を図る。		・通信を通して学級の様子、学習の準備物や行事の案内を積極的に発信していく。 ・HPでは写真を活用し学校生活をわかりやすく伝えていく。 ・地域コーディネーターを窓口にして、連携を密にし、活動に対する考えを共有していく。		B	
	◆9年間のカリキュラムを意識し、出前授業などの取組や同じ中学校区の小中学校が集まり作成した「みんなで育てよう」を活用して、さらに連携を深める。		○これまで実施してきた児童理解を深める各連絡協議会とともに、中学校進学に戸惑いのない小・中連携の充実を図る。		・児童から事前に中学校への不安や質問などを募り、それをもとにして中学校と連携を図っていく。 ・中学校の連携によってできた学習の手引きを活用するとともに、各学年の家庭学習の時間を示し、復習から自主的な学習へつながる家庭での学習習慣の確立をめざす。			